

20/11/30 名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

江上博之（共産・中川区）：おはようございます。

通告に従い質問します。

次に、名古屋城整備事業において開発優先でなく、文化財保護重視の取り組みについて、観光文化交流局長に質問します。

重要文化財展示施設の外構工事での江戸時代の遺構を傷つけ、工事を進めた毀損事件は、名古屋城整備が開発優先で、文化財保護の観点が抜け落ちていることを示しました。

幸い、修復が可能であることが示され、一安心しています。

しかし、天守閣木造復元という開発を優先し、文化財保護がないがしろにされている例がまた出てまいりました。

10月22日に行われた特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議で明らかになりました。

1点目、名古屋城天守閣解体のために天守が北側に解体工事用の構台設置のために、土台部分の調査を行うと提案しています。

その場所には、江戸時代の文献、金城温古録で、水道等記述された場所があることが明らかになっています。

文化財保護の観点から、この水道遺構の調査を第一優先に行うべきです。

ところが、構台設置のために、遺構に影響があるかどうかの調査のみで水道遺構は調査行われません。そこで質問します。

文化財保護の観点から水道遺構調査を、なぜ行わないのか理由を説明してください。

2点目、その検討会議で鉄骨鉄筋コンクリート、天守再建に当たり、いかに当時の建設者が再建に苦勞したか。石垣保全にも苦勞したかを示す写真が明らかにされました。

このような写真は最近見つかったそうですが、少なくとも市民には知らされておられません。

そもそも名古屋市は1959年、現天守再建以来、再建過程を市民に知らせてきませんでした。時々の展示をするのみです。

そして、今回木造復元に当たりその経過を記録として残すというのみです。そこで質問します。

戦後復興の象徴である現天守閣がいかに建設されたのか。現天守再建に当たったの苦勞話も含めて

しっかりと市民に示すことが先決です。どのように示すか、お示してください。

3 点目、現天守は外観復元だけでも、文化財としての価値が大変高いものです。文化庁は今年 6 月、鉄筋コンクリート造、天守等の老朽化への対応についてとりまとめを発表しました。

そこでは、老朽化した鉄骨鉄筋コンクリート天守の 50 年耐用年数について、財務省令における RC 建物の減価償却上の年限であって、老朽化対策が適切に行われる相当年数、長寿命化を実現することが不可能ではないとしています。

再アルカリ化など、延命策によって、耐震補強を行えば、相当年数維持できることが可能と言っているのです。

名古屋市は 2016 年、名古屋市の天守閣木造復元に当たって、アンケートを行い、その際、現天守閣の耐震改修工事について、おおむね 40 年の寿命と記述いたしました。

今回の文化庁の文書には、耐震補強後 40 年の寿命などという記述はありません。そこで質問させていただきます。

専門家が協議した文書にもない記述は撤回すべきです。お答えください。

これで私の第 1 回目の質問を終わります。

松雄観光文化交流局長：名古屋城整備事業における開発優先ではなく、文化財保護重視の取り組みについてに関連いたしまして 3 点ご質問いただきました。

まず最初に、現天守閣解体における遺構調査についてでございます。

天守台北側の構台設置地点におきましては、地下遺構の状況を把握するための発掘調査を実施いたします。

今回の調査は、現天守閣解体の現状変更申請に対する文化庁からの指摘事項に対応するための調査であり、解体に際しましては、仮設構台を設置する地点の地下の遺構の状況を把握した上で遺構に影響のない工法等を選択し、遺構の保存を確実に図ることが求められております。

発掘調査は一度行くと二度と元に戻らないため、目的に応じて必要最小限の範囲で行うことが重要であると考えております。

金城温古録に記載された水道遺構につきましても遺構の全体像を明らかにする目的ではなく、遺構の状況を把握するために最小限の範囲で調査を行ってまいります。

その結果を踏まえて、工事に際して遺構に影響のない工法等を検討することが文化財保護に繋がるものと考えております。

なお調査につきましても、有識者会議にお諮りした上で、いただいたご意見を踏まえて計画立案し、その実施のための現状変更許可につきましても、文化庁に申請をしているところでございます。

次に大天守閣の記録についてでございます。

10月22日に開催いたしました。第34回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議におきまして現在検討を進めております

木造天守の基礎構造の考え方をご説明させていただく中で、天守台石垣の戦後の処理や現天守閣再建時の状況についてもあわせてご説明をさせていただきました。

鉄骨鉄筋コンクリートで再建されました現天守につきましては、焼失前の木造天守に比べて重量が大きいため、天守台石垣に荷重をかけない吊り構造を採用し、全ての荷重を、天守台内部に構築したケーソンで指示するなど非常に高度で困難な工事が行われており、当時の最新の建築技術により、外観は忠実にほぼ忠実に再現し、内部は近代的な博物館機能を有する戦後復興の象徴として再建されました。

また再建に向けた機運の高まりなど、当時の人々の熱意を今に伝える建造物でもあります。

名古屋城天守閣木造復元事業を進めるにあたりましては、名古屋城の400年を超える歴史、その中での先人の方々の苦労や努力、いかにして市民の精神的支柱であり、誇りであり続けてきたかを伝え知っていただくことで、木造復元事業への理解をより深めていたことができるものと考えております。

まずは平成29年度より毎年開催しております市民向け説明会を事業の経緯や進捗状況を説明だけではなく、少しでも名古屋城について学び発見が得られる機会となりますよう、学芸員等の協力を得て工夫をしまいにまいりたいと考えております。

そして、木造天守の復元にあたりましては、記録の保存といたしまして、現天守閣の図面や写真のほか、解体する外装材や内装材、構造躯体の一部の保存、現天守閣再建までの経緯当時の人々の思いや苦労を伝える資料等の収集整理、また人々の記憶の継承といたしまして、資料等のデジタル化によるWebサイトでの公表、現天守閣の部材の展示物化なども検討しております。

引き続き有識者、文化庁のご意見を伺いながら、より具体的な方策取り組みにつきまして検討を進めて、文化庁から提出を求められております木造復元の具体的計画の中に盛り込んでまいりたいと考えております。

最後に現天守閣の老朽化対策についてでございます。

平成28年に行いました名古屋城天守の整備2万人アンケートにおきましては、現天守閣は、再建から半世紀以上を経過し、コンクリートの劣化や耐震性能が現行基準に合わないなど、様々な課題が顕在化しており、現天守閣を耐震改修した場合においても、コンクリートがおおむね40年の寿命という調査結果が出ていることを説明し、今後の天守閣の整備についてどのようにしたら良いかと思われるかを伺ったものでございます。

コンクリートの寿命を概ね40年といたしましたのは平成22年度の耐震診断と共に実施いたしました構造体劣化調査の結果に基づいたものでございます。これは耐震改修の実施の有無に関わらず、天守閣のコンクリートの中性化の進行度合いと、コンクリート内部の鉄筋の腐食、さびの状況から判断しているものでございます。ご理解を賜りたいと存じます。以上でございます。

江上博之（共産・中川区）：観光文化交流局長に再質問いたします。開発優先でなく、文化財保護重視を求めて質問しようとしてまいりましたところ、27日本会議で、また新たな問題が出ました。詳しくは経済水道委員会で所管事務調査が行われると思いますので、そこでしっかり議論したいと思います。そこで質問します。調査研究センターは、文化財保護の立場で、所長以下、全力を尽くしている。また現在の問題にも取り組んでいるという理解でよろしいですね。お答えください。

松雄観光文化交流局長：名古屋城調査研究センターの文化財保護に対する姿勢について再度お尋ねをいただきました。特別史跡名古屋城跡におきましては、今年の3月の遺構棄損事故の再発防止対策として、史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、その大前提に立って遺構等に影響を及ぼすことのないよう慎重に整備活用を図っていくことを基本原則といたしました。調査研究センターにつきましても、その原則のもと、名古屋城の文化財について調査研究を推進し、史跡の保存活用を進めております。その役割を、所長以下、調査研究センター一丸となって果たせるよう、現在も取り組んでおりますが、今般広沢副市長から、その調査の指示を受けておりますので、調査結果も踏まえて、さらに学芸員の育成、能力の向上を図り、その能力を発揮できるような環境作りを進めてまいりたいと考えております。

江上博之（共産・中川区）：現天守再建は、非常に高度で困難な工事であり当時の最新の建築技術により、外観は史実にほぼ忠実に再現し、内部は近代的な博物館機能を有する戦後復興の象徴として再建されました。また再建に向けた機運の高まりなど、当時の人々の熱意を今に伝える建造物でもありますと回答がありました。これほどの文化財としての価値がある建造物を名古屋市は名古屋市民にきちんと知らせてまいりませんでした。

再建時、伊勢湾台風の被災で、名古屋城どころではなかったというのが市民です。

それだけに、文化財としての価値をしっかりと市民に知らせ、名古屋の誇りであることを示すことこそ、名古屋市がやるべきことではありませんか。

天守木造化でなく現天守の現在の技術を駆使し、また維持管理にも努めて、長寿命化耐震補強することです。

何より、石材片やモルタルが落ちてきています。

当然、石垣そのものが大丈夫か、ボロボロになっていないか石垣保全こそ喫緊の課題ではありませんか。石垣保全や遺構の保全に全力を尽くすことを求めておきます。